

① 活動の参加者を増やそう

自治会・町内会の活動に多くの参加を得るためには、住民のニーズを把握し、みんなが求める活動を行うことが大事です。その上で、活動内容を積極的にPRしましょう。

■ 参加者が増えれば活動も充実

「どうすれば、たくさんの人が自治会・町内会の活動に参加してくれるか」。催しを行う際に、多くの役員さんが頭を悩ませています。

参加者が増えれば増えるほど、活動の幅も広がり、一つひとつの活動も充実したものになります。また、たくさんの人に参加してもらい、活動の大切さや面白さをじかに知ってもらえば、口コミでさらに参加者が集まることも期待できます。

簡単なことではありませんが、もっと住みよいまちにするために、現在の活動を振り返りながら、少しでも多くの住民を巻き込んでいくことが大切です。

■ 活動内容を工夫しよう

参加者を増やすためには、まず第一に、住民にとって魅力的な活動、住民が「参加したい」と思ふような活動を行うことが大事です。

住民が何を求め、どんなものになら参加したいと思っているのか、幅広い世代からアンケートを取ったり、会議などの場で意見を募るなどして把握し、活動に生かしていくことが大切です。

また、催しなどを企画する際は、参加者に「来てよかった」と思ってもらえるよう、楽しめる要素を取り入れたり、「地域に貢献できた」という満足が得られるようにしたりすれば、きっと「次も参加しよう」という気持ちにつながるはずです。

知^{Do you know?}ってますか?

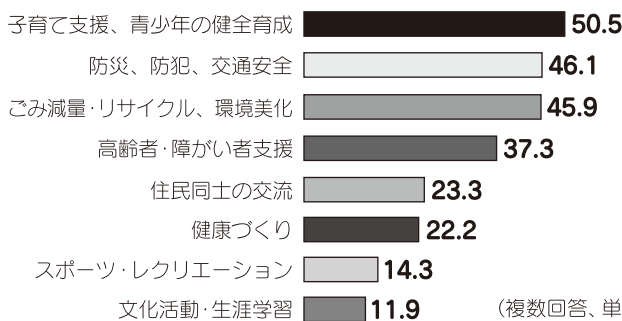
地域活動に関する市民の意識

● 地域活動に関する認識

市が令和4年度に実施した「市政アンケート調査」によると、「居住地域をより住みやすくするために、地域活動を行うことは大切だと思うか」との問いに、83.8%の市民が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えています。

また、「特にどんな活動が大切だと思うか」との問いに対しては、「子育て支援、青少年の健全育成」と答えた人が最も多く50.5%でした(グラフ参照)。安全に安心して暮らせるまちをつくるための活動が、住民に求められているようです。

特に大切と思う活動(主な回答)



(複数回答、単位%)

※自治会・町内会が「大切だと思う」「どちらかといえば大切だと思う」と答えた人のみ回答



■ 上手にPRを

「活動を知ってもらおう」ことは、参加に向けた第一歩です。活動内容が決まったら、次は、しっかりとPRをしましょう。

活動をPRし、参加を呼びかける際のポイントは、次のとおりです。

● たくさんの人の目に触れるように！

回覧板やホームページ、SNS、掲示板、そのほか町内で掲示できるスペースなどを利用し、広く参加を呼びかけましょう。また、突然言われても参加しにくいもの。呼びかけは、できるだけ早めに行うことが大切です。

● だれにでも分かるように！

興味や関心を持っていても、初めて参加する人は、「服装は？」「何かいる物は？」「所要時間は？」「申し込み方法は？」など、分からないことがいっぱいです。だれでも不安なく参加できるよう、案内文やチラシには、日程や集合場所、開始・終了時刻、主な内容、参加費のほか、問い合わせ先も明記しておきましょう。

● 直接声かけを！

自治会・町内会の活動に普段あまりかかわっていない人は、何かきっかけがなければ参加しづらいもの。顔見知り、あいさつを交わす仲のご近所さんへは、直接声をかけるのが効果的です。「あの人に誘われたから…」というきっかけを積極的につくっていきましょう。

ある自治会のひと工夫

● 新しい人に呼びかけるつもりで！

催しのチラシを作る時、私が一番に心がけているのは「参加したことがない人に語りかける気持ちで」ということです。初めての人は、きっと参加するのに勇気がいるはず。「だれでも参加できます」「初めての方、歓迎」などの言葉や簡単な地図を入れるなど、目にした人に「ちょっと行ってみようかな」と思ってもらえるよう工夫しています。

● 「誰かと一緒なら」のきっかけを！

「仕事で疲れてそれどころでは…」「忙しくて地域活動に参加する時間は…」。「働いている世代は忙しいものです。うちの自治会では、「子どもと一緒になら…」という心理をつかみながら、子どもたちの活動に簡単な手伝いをお願いしたり、家族で参加できるよう内容を工夫したりしています。また、一人住まいの人へは「一緒に参加しない？」と声をかけ、「だれかと一緒なら行ってみようか」と思ってもらえるよう努めています。

● みんなが楽しめることを！

町内の活動を盛り上げるには、とにかく、家から出てきてもらわないと始まりません。うちの地域では「人集めには、食べ物が一番」と話し合い、もちつき大会やバーベキュー大会などを開催しています。新しい方も気楽に参加できるようで、休日の昼ごはんを兼ねて広場いっぱい人に集まります。「顔なじみが増える」と大好評です。



❗ 夏祭りのお知らせ文(例)

59 頁へ

❗ 敬老会の案内文(例)

60 頁へ

❗ 町内アンケート(例)

61 頁へ

② みんなで仕事を分担しよう

活発な活動を長く続けていくためには、多くの人を巻き込むことが大事です。みんなで仕事を分担して、「自分たちのまち」をつくる喜びや達成感を共有しましょう。

■ 喜びや達成感を分かち合おう

活動を行う時、「手をわずらわせるのは悪いから」と遠慮して、会長や役員だけでがんばってしまいがちです。しかし、負担の少ない範囲であえて協力をお願いしてみることも大切です。

みんなで分担すれば、各人の負担が減るだけでなく、やり遂げた時の喜びや達成感も分かち合えます。そうすれば、「みんなの自治会・町内会だ」という意識にもつながっていくでしょう。

また、一緒に働けば、互いによく知り合うことができ、仲良くなれるものです。

■ 「だれでもできる」体制をつくろう

大きな催しなどでは、多くの人がかかります。そのため、運営マニュアルを作ったり、メモでノウハウの情報共有をしている町内もあるようです。

特定の人にしか分からないという状況を少しずつなくし、だれが何を担当しても困らないようにしていくことが大切です。

情報共有のポイント

～ 催しなどをみんなで運営するために ～

催しなどが終わった後、工夫したことや改善が必要なことを記録しておけば、次に担当する人の参考になるだけでなく、運営や活動を一層充実させるためのヒントにもなります。

次のようなことをメモにして残しておきましょう。また、会場のレイアウトなど、できるだけ写真をとっておきましょう。

- ・ 準備したものとその数量
- ・ 協力者数(大人○名、子ども○名)
- ・ 作業手順や所要時間
- ・ うまくいった点や工夫した点
- ・ 反省点や改善を要する点
- ・ 担当者の感想や協力者の声
- ・ 担当者名

※ 大きな催しなどで、いくつもの班に分かれて作業した場合は、「受付」「調理」など、班別にメモを作成しておく、次に担当する人にそのまま渡せて便利です。

知^{Do you know}ってますか?

NPO、ボランティア団体

地域には、自治会・町内会以外にも、営利目的ではなく、公益的な活動を行っている団体があります。

NPOやボランティア団体は、子育て、高齢者福祉、子どもの健全育成、環境、災害、まちづくりなど、多岐にわたって活動しており、様々な地域課題の解決に向けて、専門性、迅速性、柔軟性を生かしながら、自発的に活動しています。

※NPO(Non Profit Organization＝民間非営利団体)とは、行政、企業とは独立した存在として、社会的な課題を解決するため、保健・医療・福祉、子どもの健全育成、環境、まちづくりなどの公益活動を行う組織・団体です。

福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」

「あすみん」では、NPO・ボランティアをはじめとする市民の公益的な活動について、情報・交流の場を提供しています。気軽にご利用ください。

〒810-0021 中央区今泉1-19-22 天神クラス 4階
電話 724-4801 FAX 724-4901
ホームページ <https://www.fnvc.jp/>



■ 後継者を探し育てよう

自治会・町内会の活動を未来につなげていくためには、後継者を探し育てることが重要です。このことは、多くの自治会・町内会に共通する課題となっています。

役員の中には、新しい人材を発掘するため、「常にあらゆる場所で情報収集をしている」という方もおられます。特に、夏祭りなどの大きな催しは、たくさんの人が協力して動いているため、適任者をスカウトするのによい機会です。

また、輪番で担当している隣組長の中から次の役員候補者を探している自治会もあるようです。

■ 後継者へは早めの引き継ぎを

後継者が見つかったら、早めに少しずつ引き継ぎを行いましょう。

役員や担当者が代わっても運営や活動が滞ることがないように、交代の時期が近づいたら、後任の人も一緒に会議などに出席するようにしている自治会・町内会もあるようです。また、役職ごとにファイルを作成し、日ごろの活動や懸案事項についての記録のほか、参考となる資料などをとじておけば、後任の人も安心です。

ある自治会のひと工夫

●名前を呼ぶことで親近感を！

私が町内会長として心がけていることの一つに、「相手の名前を呼ぶこと」があります。活動に協力してくれた人は、できるだけ名前を覚え、次に会った時に「〇〇さん、この間はありがとう」と声をかけるようにしています。名前を呼んであいさつすることで、親近感を持ってもらえるようで、顔見知りから一歩進んだつながりができ、次の活動の時には、「会長さんの頼みなら」と協力してもらえたりするんですよ。

●「役員は変わるもの」と思ってもらおう！

うちの自治会では、規約で、役員の再任制限と定年制を規定しています。同じ人が長く役員を務めれば、よい点もありますが、一人の負担が大きくなり大変です。また、いろいろな人が役員を経験すれば、新しい発想を取り入れることもできます。「役員は変わるもの」という意識をみんなが持つことで、常に「次の役員を探そう」「次の人に引き継げる体制をつくらなければ」という気持ちも生まれるんですよ。

●新人役員さんの不安解消を！

初めて役員を任された時、「自分に務まるかな」と心配する人は多いものです。うちの自治会では、役員交代の後、最初に、会長から「できる範囲で大丈夫！」「何でも相談してね！」と声をかけています。ベテランが新人を支えながら、みんなで協力して運営しています。



❗ 協力者募集の案内(例)

62頁へ

❗ 催しの運営メモ(例)

63頁へ

③ 加入を促進しよう

自治意識の希薄化や都市化が進む今、多くの自治会・町内会で加入促進が課題となっています。活動内容をしっかりと説明し、未加入者の理解を得ることが重要です。

■ 多くの加入が自治に不可欠

自治会・町内会に加入しない人（未加入者）が多いことが、最近、都心部を中心に大きな問題となっています。

自治会・町内会は、多くの住民の参加と合意があってはじめて、地域のことを決定したり、地域を運営したりすることが可能になります。

未加入者が増えると、住民の総意として意思決定をすることができなくなり、自治組織としての本来の機能が失われてしまいます。さらに、地域で生活する上でのルールやマナーが守られなくなったり、活動の協力者・理解者が減り、まちの安全や美観が保てなくなったりすることも考えられます。

自治会・町内会に多くの人に参加してもらうことは、会費収入の問題だけでなく、自治の下、みんなでまちをつくっていくために大変重要なことなのです。

■ 目的・活動内容を伝えよう

自治会・町内会について、少し前までは、一般に「必ず加入するものだ」という認識がありました。しかし、最近は「納得のいく理由がなければ加入しない」という人も増えています。

そのため、加入を呼びかける時は、会の目的や活動内容を相手に理解してもらうことから始める必要があります。自治会・町内会が地域でどう役立っているかをしっかり伝えることが重要です。

例えば、防犯灯は自治会・町内会が設置していますし、町内によっては、子どもの見守りを行っているところや、災害に備えて備蓄をしているところもあるでしょう。

自治会・町内会がこうした活動を行っていることは、日ごろから活動に参加している人にとっては当たり前でも、そうでない人には意外に知られていないものです。こうした点を積極的にアピールするのも一つの方法です。

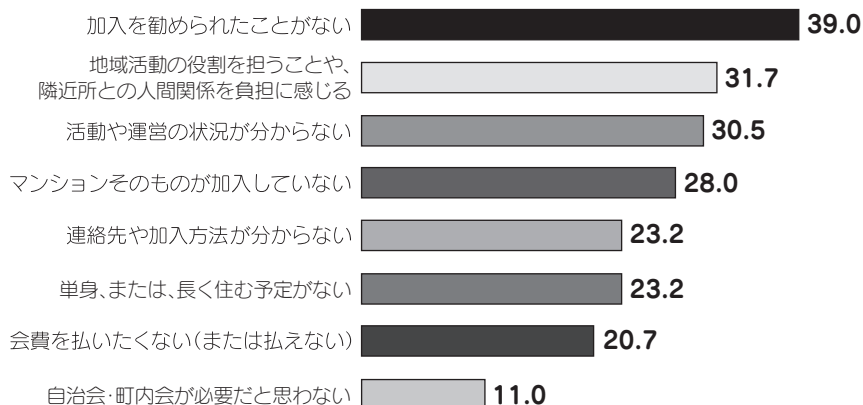
知^{Do you know}っていますか？

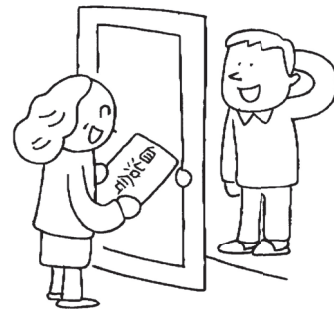
未加入者の割合と未加入の理由

市が令和4年度に実施した「市政アンケート調査」によると、自治会・町内会に加入している人は72.1%で、していない人は14.4%でした。加入していない理由としては、「加入を勧められたことがないから」が最も多く、次いで「地域活動の役割を担うことや、隣近所との人間関係を負担に感じるから」となっています（グラフ参照）。

自治会・町内会に加入していない理由(主な回答)

(複数回答、単位：%)





■ 校区みんなで連携を

未加入者の加入促進は、多くの地域に共通する課題です。

各自治会・町内会が単独で取り組むのではなく、校区内の自治会・町内会や各種の団体が連携して取り組めば、より有効な働きかけができる場合もあります。

例えば、地域によっては、自治協議会で校区や町内の活動を紹介するチラシを作成し、校区を挙げて加入促進に取り組んでいるところもあります。また、自治会・町内会だけでなく、校区内のさまざまな団体が一緒になって、それぞれの会員や事業を通じて加入を呼びかけている例もあるようです。

※ 集合住宅については、37～38頁もご覧ください。

※「PRチラシ」活用できます

市は、自治協議会等7区会長会と共同で、自治会・町内会や自治協議会、地域の活動などについて紹介するチラシを作成し、区役所窓口で転入者などに配布しています。

このチラシには、自治会の名称や連絡先を記載できますので、自治会・町内会自らが、転入者や未加入者に対し、自治組織の意義や重要性についてPRすることも可能です。

このチラシを地域で活用したい場合は、各区地域支援課にご連絡ください（**連絡先は72頁参照**）。

● **引っ越して来た方にあいさつ状を！**

うちの自治会では、新しく引っ越してきた方のために、自治会長と隣組長の連絡先や、ごみの出し方などを書いたあいさつ状をつくっています。隣組長が持参して「分からない点は遠慮なく聞いてください」とお話しし、活動内容もお知らせすると、多くの皆さんが理解して、加入して下さいます。

● **相手の気持ちになって説明を！**

加入を案内する時、以前はまず「入会金500円、月会費300円を払って」とお願いしていましたが、「払う義務はないはずだ」と相手を怒らせてしまうこともありました。その反省から、現在は、最初に会の目的や活動を丁寧に説明するようにしています。相手の気持ちになってみれば、突然知らない人がやって来て、ドアを開けた途端にお金の話をされると、加入する気もなくなりますもんね。

ふくコミ～福岡市地域コミュニティサイト～

市は、地域活動への参加や自治会・町内会への加入のきっかけとなるよう、市民と自治会・町内会等をつなぐWEBサイト「地域コミュニティサイト」を開設しています。このサイトでは、住所入力でお住いの地域の情報を表示したり、地域活動の情報配信、加入希望者と自治会・町内会との取次などを行っています。



【アクセス】サイトURL : <https://fukucomi.city.fukuoka.lg.jp>



- ① 自治会加入の案内チラシ(例)
- ① 新規転入者へのあいさつ状(例)

64頁へ

65頁へ